

## 第53回 記者懇談会実施概要

1 日 時 平成20年11月28日(金) 15時～

2 場 所 100周年記念会館 第2会議室

3 内 容

(1) 研究発表・質疑応答 (15:00～15:30)

・山崎<sup>やまざき</sup>直樹<sup>なおき</sup> 外国語教育研究機構教授

発表テーマ「知識の仕様を明示してから辞書の記述を考える

ーオントロジー工学的アプローチー

(2) 学生発表・質疑応答 (15:30～16:00)

・経済学部 良永康平<sup>よしながこうへい</sup>ゼミ 3年次生 今野慶彦・石田朋子・植野祐介

発表テーマ「ごみ減量に向けてー関西大学と関西地方から考察するー」

(3) 学内状況説明・情報交換 (16:00～17:00)

① 平成20年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定について [資料1](#)

② 外国語学部開設記念シンポジウムの開催について [資料2](#)

③ 水谷修客員教授講演会の開催について [資料3](#)

④ 会計専門職大学院秋季セミナー(第4弾・第5弾)の開催について [資料4](#)

⑤ 教育開発支援センター企画第1弾「FDフォーラム」の開催について [資料5](#)

⑥ 織田作之助賞25周年記念座談会の開催について [資料6](#)

⑦ 河田悌一学長の文部科学省中央教育審議会専門委員就任について

⑧ 河田悌一学長の高槻市制65周年・中核市移行5周年記念事業『「学びの連鎖強化ビジョン」シンポジウム in 高槻」へのパネリスト出演について [資料7](#)

⑨ ウォームビズの実施について [資料8](#)

⑩ 関大生の活躍について [資料9](#)

⑪ 阪神タイガース岩田稔投手凱旋トークイベントの実施について [資料10](#)

4 大学側出席者

河田悌一学長、良永康平学長補佐

山崎直樹外国語教育研究機構教授、経済学部3年次生 今野慶彦・石田朋子・植野祐介

川原哲夫学長課長、藤本清高広報室長、木田勝也広報課長 他

5 参考資料

(1) 関西大学通信第357号

(2) ニュースレター「Red」No.15

(3) 経済学部講演会 チラシ

(4) 経済・政治研究所創立50周年記念講演会 チラシ

(5) 経済・政治研究所第180回産業セミナー

(6) 経済・政治研究所第185回公開講座

(7) 文化交渉学教育研究拠点(ICIS)第1回次世代国際学術フォーラム チラシ

以上

# 知識の仕様を明示してから辞書の記述を考える ——オントロジー工学的アプローチ——

山崎直樹 (やまざき・なおき)  
外国語教育研究機構・教授  
(※2009年4月より外国語学部)

## 概要

### i 発端～中国語辞書にたいする不満

中国語辞書で“感冒”（カゼ）を引いても，“感冒没去上班”（カゼで仕事を休んだ）という用例が得られない，“地震”（じしん）を引いても，“這次大地震死了很多人”（今回の地震でたくさんの人が死んだ）という表現のための手がかりが得られない……「発信型」の外国語教育の必要性が唱えられる昨今，このようなことでよいのか？

### ii 原因の所在～経験と勘ではいけない

これは個々の辞書の出来の善し悪しの問題ではない。経験と勘に頼る記述方針こそが問題である。例えば，英語の辞書では，名詞が可算か非可算か，動詞が他動詞か自動詞か，を書き漏らししている辞書は無い。これは，少なくとも英語の辞書では，文法を記述し遺漏をチェックするための枠組みが確立しているからである。

### iii どのようなアプローチを採るか～知識を記述するフレームワーク

「文法体系を記述する枠組み」と同じように，「知識の体系の全体像を記述するフレームワーク」を構築し，それを出発点にして，辞書の記述を，特に学習者が何かを表現しようとする時に使えるような辞書の記述を考える。

### iv 「オントロジー」とは～概念の明示的な仕様

「現実世界の様々な物や出来事に関して，我々が持っている暗黙の了解や前提知識を，それら相互の関係を論理的に規定することにより，明示的に記述したもの」。このようなオントロジーを「知識を記述するためのフレームワーク」として援用する。

### iv 辞書の記述にどう適用するか～「疾病」「気象現象」「災厄」

(i)で指摘した問題を解決するため，「疾病」「気象現象」「災厄」のオントロジーを構築し，それを中国語辞書の記述に生かす試みを紹介する。

---

## プロフィール

1962年愛知県生。早稲田大助手，広島大助教授，大阪外大助教授を経て現職。専攻は中国語学および中国語教育。現在関わっているプロジェクト：1) 学習者用中国語辞書のフレームワーク作り，2) 『高等学校の中国語：学習のめやす』（国際文化フォーラム，2007）に準拠したコミュニケーション型アプローチによる教材作成，3) 多言語パラレルコーパスの構築，4) 東アジア古典文献コーパスの構築。編著書に『辞書のチカラ』（遠藤雅裕と共編，好文出版，2005）など。

# ごみ減量に向けて —関西大学と関西地方から考察する—

経済学部 3年次 よしながこうへい 良永康平ゼミ

## 【概要】

私たちは、関西大学や関西大学生生活協同組合をはじめ、ごみ収集業者・処理業者などの協力を得て取材を行い、関西大学のごみ処理の現状を調べました。これまで、大学内でも、あまり知られることのなかった大学全体のごみの実態をはじめ、分別・収集を経て処理・焼却される、または海外へ輸出されているものの存在など、ごみの行方を調査し、ごみ処理フローを完成させました。そこから見えてきた問題点や、関西大学が地域に誇れるエコキャンパスとして在るために何をすべきかを報告します。

さらに、分別・リサイクル活動の遅れを指摘される関西地方のごみの現状を、各市町村に対してインターネット・電話・訪問により調査しました。関西と、ごみ問題に関して先進地域とされる関東との違いは、どのような背景から生じているのか。関西地方では、今後どのような制度を取り入れ、ごみ問題に取り組むべきなのか。収集業者や処理業者などへの取材で得た「現場の声」から考察し、私たちの意見を紹介します。

最後に、関西大学、関西の各自治体を調査してわかった、ごみ減量に必要な「2つの要素」をまとめます。

## 【良永ゼミ・プロフィール】

担当教員は良永康平経済学部教授で、地球環境問題を対象としています。今年は「大学、地域におけるごみ問題」をテーマとしており、今回発表する3年次ゼミは24名。主な取り組みを、「関西大学のごみ」（関西大学生生活協同組合『書評』第130号、2008年）、『平成20年度版 関西ごみの現状』（関西大学良永ゼミ、2008年）、吹田市民向け『エコプレス』（発行：アジェンダ21すいたエネルギー部会、編集：良永ゼミ、年4回発行）で発表。最近ではプレゼン発表で競う「関西ブロック大会」で表彰されるなど、学内にとどまらず幅広く活動しています。

## 【発表者】

経済学部 3年次生 今野慶彦

経済学部 3年次生 石田朋子

経済学部 3年次生 植野祐介